

会 告

IGS 日本支部 2014 年通常総会 議事録

1. 日 時： 平成 26 年 2 月 12 日（水）16：00～17：00

2. 場 所： 地盤工学会 地下会議室

3. 議事資料：2014 年通常総会議題書

4. 議事内容

（１）開会宣言

- ・ 平井幹事長より 2014 年通常総会の開会宣言がなされた。
- ・ 出席者は個人会員 16 名、特別会員代表者 7 名、委任状は個人会員 102 名、特別会員 6 社で総票数 183。全会員票数 279 の 2 分の 1 を上回り、通常総会は成立した。

（２）議長選出及び議長挨拶

- ・ 議長には三木支部長が選出され、承認された。

（３）2013 年事業報告及び 2014 年事業計画【資料 1】

- ・ 資料に基づき、桑野副支部長より日本支部の現況会員数等について、各委員会より 2013 年活動報告、2014 年活動計画についてそれぞれ説明がなされた。

（４）2013 年収支決算・2014 年予算(案)（財務委員会）【資料-2】

- ・ 資料に基づき、伊藤会計幹事より 2013 年度決算報告、2014 年度予算(案)について説明がなされ、承認された。

（５）2013 年監査報告【資料-3】

- ・ 資料に基づき、横田副幹事長より 2013 年一般会計は適正かつ正確であることが報告された。

（６）2014 年役員の選出【資料-4】

- ・ 資料に基づき 2014 年度役員の再任・退任について説明がなされ、承認された。

（７）閉会挨拶

- ・ 平井幹事長の閉会挨拶により、2014 年通常総会は閉会した。

以上

＜2013 年度事業報告及び 2014 年度事業計画＞

1. 現況会員数（2013 年 12 月 31 日現在）

正会員 194 名、特別会員 17 社、学生会員 16 名

（2012 年末の会員数： 正会員 207 名、特別会員 17 社、学生会員 11 名）

2. 日本支部の主な活動

1) IGS 理事会

1-1) 2013 年 11 月 15 日～18 日ガーナ、Accra (Accra International Conference Centre)

日本の出席者：龍岡前会長、大谷理事、桑野理事

1-2) 理事選挙（2 年ごとに半数改選）

龍岡前会長、大谷理事が 2014 年 9 月理事会（ベルリン 10ICG）をもって任期満了・退任となる。

龍岡前会長、大谷理事と桑野、三木支部長が相談し、勝見京都大学教授に立候補を打診し了解を得た。

2) IGS 本部への会員名簿の提出

3) 2013 年 12 月 4-5 日 第 28 回ジオシンセティックスシンポジウム（香川高専）

3. 刊行物の発行事業

1. 国際ジオシンセティックス学会日本支部会員名簿

2. ジオシンセティックス技術情報（3 月，7 月，11 月号）

3. ジオシンセティックス論文集第 28 巻

以上

ジオシンセティックス技術情報編集委員会 2013 年活動報告

(1) 2013 年編集委員会活動報告内容

- 1) 第 1 回編集委員会（日時：平成 25 年 1 月 25(金)，場所：三井化学産資 8F 会議室）
 - ・ '13 編集体制の確認・検討・決定，委員の交代（江崎委員→鳥海委員(スパンボンド土木会)）
 - ・ '13. 3 月号の進捗状況の確認と未入稿原稿への対応，次号送り原稿の検討
 - ・ '13. 7 月号の特集を「長期性能を確保するための技術」とした。
 - ・ '13. 7 月号の特集以外の内容に関する検討
- 2) 第 2 回編集委員会（日時：平成 25 年 5 月 31 日(金)，場所：三井化学産資 8F 会議室）
 - ・ '13 編集体制の確認・検討・決定，委員の交代
→ 2014 年 11 月号と 2015 年 3 月号の編集担当者の入れ替え
 - ・ '13. 3 月号の申し送り事項と反省点の検討
 - ・ '13. 7 月号の特集に関する検討
 - ・ '13.11 月号の目次案および編集工程の検討
- 3) 第 3 回編集委員会（日時：平成 25 年 7 月 31 日(水)，場所：三井化学産資 8F 会議室）
 - ・ '13. 7 月号の進捗遅れの報告，未入稿原稿への対応，次号送り原稿の検討
 - ・ '13.11 月号の目次案および編集工程の検討
 - ・ 技術賞推薦候補，技術奨励賞推薦候補の技術報文について，事前の委員選定結果に基づいて選考した。
- 4) 第 4 回編集委員会（日時：平成 25 年 9 月 26 日(木)，場所：三井化学産資 8F 会議室）
 - ・ 編集委員会開催時期の変更に伴う編集体および編集工程の見直しに関する検討
 - ・ '13.11 月号の進捗状況の確認と未入稿原稿への対応，次号送り原稿の検討
 - ・ '13. 3 月号の目次案および編集工程の検討

(2) 2013 年委員会設営費報告

内 訳	予算 (円)	実績 (円)	備 考
① 委員会経費 ・ 編集委員会	200,000	64,000 64,000 66,000 6,000	第 1 回編集委員会交通費 第 2 回編集委員会交通費 第 3 回編集委員会交通費 第 4 回編集委員会交通費
合 計	200,000	200,000	

ジオシンセティックス技術情報編集委員会 2014 年活動計画

(1) 2014 年活動予定内容

<全体の活動内容>

定期発刊を心掛けるとともに、「技術報文」の投稿については、編集委員による情報収集のほか、シンポジウム掲載論文や他学協会の年次講演会を範疇に入れ、JC-JGS 技術賞候補論文および JC-JGS 技術奨励賞論文の対象に成り得るような質の高い「技術報文」の掘り起こしを積極的に行う予定である。

毎年、特集号として位置付けられる 7 月号については、国土強靱化計画が策定されるなど、防災・減災、維持管理、メンテナンスなどが喫緊の課題とされていることから、「ジオシンセティックスの国土強靱化への適用」をテーマとして技術報文を募集する予定である。また、本年 9 月に国際ジオシンセティックス会議が開催されるため、11 月号に「第 10 回国際ジオシンセティックス会議の特集」を組む予定である。

さらに、我が国におけるジオシンセティックス関連の規格・基準の整備の必要性が認識されつつあることから、ISO や ASTM で審議中の規格案に関する「審議情報」を積極的に掲載していくとともに、これまで同様、「修士、博士論文概要の紹介」などの掲載を引き続き行う。

<具体的な活動内容>

1. ジオシンセティックス技術情報の発行

ジオシンセティックス技術情報は、従来通り年 3 回の発行とする。

(2014 年 3 月号, 2014 年 7 月号, 2014 年 11 月号)

2. 編集委員会

編集委員会においては、ジオシンセティックス技術情報を滞り無く発行するための定例業務として、目次案の検討や原稿執筆状況の確認などを行うとともに、編集に際しての問題点の解決を行う。また、継続的な審議事項として、編集方針や内容分類の整理、テーマ特集号の設定、新企画の検討など、読者のニーズに合うように **check and review** を積極的に行う。なお、5 月の編集委員会では、2014 年度技術賞、技術奨励賞の受賞候補となる技術報文の推薦選考を行う予定である。

開催予定：4 回程度（1 月，5 月，7 月，9 月を予定）

3. 主査・副査担当者

主査・副査担当においては、編集委員会で決定した編集方針に基づくジオシンセティックス技術情報の実質的な編集作業として、原稿の内容確認などを行う。なお、今年度の主査・副査担当者は以下に示す通りである。また、編集作業は、基本的にはメールで作業を行う。

14 年 3 月号：主査 原田委員，副査：荻迫委員，川島委員

7 月号：主査 川邊委員，副査：高橋委員，土橋委員

11 月号：主査 西村委員，副査：内村委員，原田委員

(2) 2014 年設営費計画

委員会設営費については、例年通りの交通費として以下の予算案としたい。

内 訳	2014 年度予算案(円)	備 考
① 委員会経費 ・編集委員会	200,000	委員会交通費 (60,000×3 回+20,000×1 回)
合 計	200,000	

ジオシンセティックス試験法委員会 2013 年度活動報告

(1) 試験法委員会の活動概要

- ・地盤工学会基準部に設置されている室内試験規格・基準検討委員会内のジオシンセティックス WG と連携して作業を進めている。
- ・2013 年度は、現行のジオシンセティックスに関する 3 規格(JIS)の見直しや今後の対応について検討した。
 - ・現行 JIS の改訂作業については、JIS が「L」番号であるため「A」番号に変更することとした。
 - ・JC-IGS 編集委員会で作成した「ジオシンセティックス用語集」の内容に基づいて、「JIS L 0221 ジオシンセティックス用語」の見直し作業を行った。

(2) 2013 年度委員会設営費報告

内 訳	予算 (円)	実績 (円)	備 考
① 委員会経費 ・試験法委員会	200,000	179,700	第 2 回試験法委員会交通費
合 計	200,000	179,700	残 20,300 円

ジオシンセティックス試験法委員会 2014 年度活動計画

(1) 活動計画

- 1) JIS L 0221 ジオシンセティックス用語について、JC-IGS 編集委員会で作成した「ジオシンセティックス用語集」の内容に基づいて、JIS 内容の見直しが終了したので、JIS 書式の則った改訂作業を地盤工学会／室内土質試験規格・基準委員会／WG6(ジオシンセティックス)と協力して実施する予定である。
- 2) ISO で制定されている国際規格を参照しながら、今後、我が国において必要なジオシンセティックス基準を検討するとともに、土研センター、国内メーカー及び関連協会等と意見交換しながら、基準化すべき試験法を抽出する。
- 3) 国内のジオシンセティックス試験法に対する要望を収集するために、継続的に、IGS 日本支部コーポレートメンバー委員会との意見交換会を実施する予定である。

(2) 2014 年設営費計画

委員会を 2 回開催する予定であることから、以下の予算案としたい。

内 訳	2014 年度予算案 (円)	備 考
① 委員会経費 ・試験法委員会	200,000	委員会交通費 (100,000×2 回) 熊本あるいは苫小牧－東京(2 回程度)
合 計	200,000	

行事委員会 2013 年活動報告

(1) 2013 年活動報告

第28回ジオシンセティックスシンポジウムを、12月4～5日に、香川高等専門学校で開催した。

- 2月 会場、日時の決定
- 3月 ジオシンセティックス技術情報、Web、メールでの発表論文募集への会告掲載
- 4月 地盤工学会・繊維学会へのジオシンセティックスシンポジウム共催依頼、広報依頼
- 5月31日 投稿の事前通知 締切
- 7月31日 本論文の提出、投稿申し込み 締切
- 8月 6日 第1回行事委員会
- 10月31日 本論文の修正原稿提出締切
- 12月4～5日 第28回ジオシンセティックスシンポジウム（地盤工学会館）
参加者136名、一般発表(27編)、特別講演(香川高等専門学校 嘉門雅史 校長)、
JC-IGS 論文賞・奨励賞・技術賞・技術奨励賞表彰式、懇親会60名
- 12月4日 第2回行事委員会

※本年は、参加者が少なかったため、フットサル大会は実施しなかった。

(2) 2013 年委員会設営費報告

内 訳	予 算	実 績	備 考
委員会設営費	100,000	9,664	
交通費	(25,000)	(0)	
通信費・消耗品費等	(25,000)	(9,664)	会議費
論文集編集アルバイト代	(50,000)	(0)	

(3) シンポジウム収支報告

内 訳	予 算	実 績	備 考
第28回シンポジウム	-250,000		(高松開催)
収入	450,000 (330,000) (100,000) (20,000) - -	610,000 446,000 164,000 0 0 12,000	シンポジウム参加費 懇親会参加費 プレイント(フットサル)参加費(中止) 論文集購入(現金0名) 請求書払い(2名・2014年支払い)
支出	700,000 (0) (440,000) (50,000) (30,000) (150,000) (30,000)	1,066,106 22,875 575,946 231,740 35,595 199,950 0	会場費・設営費 論文集印刷費 210部 特別講演謝礼・交通費、バスチャーター 通信費・消耗品ほか 懇親会費 プレイント(フットサル)参加費(中止)

平成25年12月4日/5日

第28回ジオシンセティックスシンポジウム収支

	シンポ参加人数	収入額		懇親会参加人数	収入額
正会員	44	176,000	参加者	41	164,000
非会員	32	192,000			
招待	18	0	学生	7	0
優待	12	48,000	招待	12	0
学生	30	30,000			
小計	136	446,000	小計	60	164,000

参加収入総計 610,000

請求書払い 2 12,000 非会員2名
計 622,000 総計見込み

行事委員会 2014 年活動計画

(1) 2014 年活動予定内容

第 29 回ジオシンセティックスシンポジウムは、12 月 3 (水) ～ 4 日(木)、東京の地盤工学会館で開催する。

- 2 月 会場、日時の決定
- 2 月 ジオシンセティックス技術情報、Web、メールでの発表論文募集への会告掲載
- 4 月 地盤工学会・繊維学会へのジオシンセティックスシンポジウム共催依頼、広報依頼
- 7～11 月 技術情報誌、Web、メール、地盤工学会誌などにおける開催案内
- 7 月 31 日 論文の申し込み締切 (題目と概要)
- 8 月上旬 第 1 回行事委員会
- 8 月下旬 第 2 回行事委員会
- 10 月 31 日 本論文の修正原稿提出締切
- 11 月上旬 招待状発送 (支部顧問、特別会員)、修正済み原稿取りまとめ、論文集作成
- 12 月 2 日 シンポジウム プレイベント (フットサル大会)
- 12 月 3～4 日 第 29 回ジオシンセティックスシンポジウム (地盤工学会館.)
一般発表、特別講演、JC-IGS 論文賞・奨励賞・技術賞・技術奨励賞表彰式、
第 3 回行事委員会

(2) 2014 年設営費計画

2014 年度の予算 (案)

内 訳	予 算	備 考
行事委員会設営費	100,000	
(内訳)	(25,000) (25,000) (50,000)	委員会交通費・事務局旅費ほか 通信費・消耗品費等 論文集編集アルバイト代
第 29 回シンポジウム	0	(東京)
(収入)	670,000 (450,000) (200,000) (20,000)	シンポジウム参加費 懇親会参加費 プレイベント参加費
(支出)	670,000 (0) (410,000) (50,000) (30,000) (150,000) (30,000)	会場費・設営費 論文集印刷費 210 部 特別講演謝礼・交通費 通信費・事務局旅費ほか 懇親会費 プレイベント経費

2013 年度 行事委員会・論文集編集委員会 名簿：

委員長	内村太郎 (東京大学)	委員	橘 伸也 (埼玉大学)
顧問	落合英俊 (九州大学)	委員	帛田雅明 (三菱樹脂インフラテック (株))
顧問	嘉門雅史 (香川高等専門学校)	委員	中村 努 (苫小牧高等工業専門学校)
委員	金子賢治 (八戸工業大学)	委員	西形達明 (関西大学)
委員	河端俊典 (神戸大学)	委員	平川大貴 (防衛大学校)
委員	熊谷浩二 (八戸工業大学)	委員	峯岸邦夫 (日本大学)
委員	小島謙一 ((財) 鉄道総合技術研究所)	委員	安福規之 (九州大学)
委員	小竹 望 (香川高等専門学校)	委員	吉田浩一 (前田工織 (株))

以上

電子情報化委員会 2013 年活動報告

(1) 2013 年活動報告内容

<主な活動内容>

- ・ HP の更新、改良（ニュース、データベースなど）
- ・ 論文集の公開、技術情報誌の電子化、公開
- ・ その他

1. HP の更新、改良について

定期的なニュースや、学会からの情報などについては HP 担当を中心として、更新等を実施した。各委員会との連携を強化して、より迅速に部外への情報発信を行った。

○URL <http://www.jcigs.org/> （2012 年 1 月より）

2. 論文集の公開、技術情報誌の電子化

論文集：J-Stage においてジオシンセティクス論文集を公開中である（年 1 回の追加）。

技術情報誌：Journal@rchive で掲載中（2008 年まで）

全ページおよび 2009 年以降分については、日本支部 HP 内でのデータベースとして掲載中である。

3. その他

国際化に対応して、日本支部の HP ではあるものの、簡単な概要等を英文化することを検討していきたい。

(2) 2013 年委員会設営費報告

予算：100,000 円

(内訳)

・ HP メンテナンス作業：	50,000 円
<支出合計>	50,000 円
<残 金>	50,000 円

電子情報化委員会 2014 年活動計画

(1) 2014 年活動予定内容

<主な活動内容>

- ・ HP の更新、改良 (ニュース、データベースなど)
- ・ 論文集の公開、技術情報誌の電子化、公開
- ・ その他

1. HP の更新、改良について

定期的なニュースや、学会からの情報などについては HP 担当を中心として、更新等を実施した。各委員会との連携を強化して、より迅速に部外への情報発信を行った。

○URL <http://www.jcigs.org/>

2. 論文集の公開、技術情報誌の電子化

論文集、技術情報誌とも掲載中である。

論文集 : J-Stage (年 1 回の更新)。

技術情報誌 : Journal@rchive (2008 年まで)、その他は、日本支部 HP 内。

3. その他

- ・ 国際化への対応 (日本支部 HP の簡単な英文 TOP 画面)、情報発信 (基準、10ICG 他)
- ・ 委員会情報・報告の発信 (会員サービス)

(2) 2014 年設営費計画 (案)

予算 : 100,000 円

(内訳)

- ・ HP メンテナンス作業 : 50,000 円
 - ・ 論文集電子化作業 (第 28、29 回分)
: 40,000 円
 - ・ その他 (事務手数料他) : 10,000 円
- <支出合計> 100,000 円

コーポレートメンバー委員会 2013 年活動報告

(1) 2013 年活動報告内容

- 『ジオシンセティックス技術情報』コーポレートメンバーのページを各社で掲載した。
 - ・3月号 (株) ジオシステム
 - ・7月号 芦森工業 (株)、(株) クラレ
 - ・11月号 高耐圧ポリエチレン管協会, 東京インキ (株)
- 日本支部コーポレートメンバーへのサポート

(2) 2013 年委員会設営費報告

委員会設営費	:	収入	50,000 円
		支出	0 円
		残金	50,000 円

コーポレートメンバー委員会 2014 年活動計画

(1) 2014 年活動予定内容

- 『ジオシンセティックス技術情報』コーポレートメンバーのページを各社で掲載する。
- コーポレートメンバー会議の開催
- 各委員会からの連絡事項への協力
- I G S 本部名簿のメンテナンス
- その他／会社単位での入会勧誘活動を行う。

(2) 2014 年委員会設営費計画

委員会設営費	:	収入	50,000 円
--------	---	----	----------

※) 会議費等で使用予定

表彰委員会 2013 年活動報告

(1) 2013 年表彰委員会活動報告内容

- ・2013 年度 IGS 日本支部賞の選考

2013 年度 IGS 日本支部賞は下記の各賞について表彰規定により、表彰委員会にて選考した。

2013 年 12 月 4 日のシンポジウム開催時に表彰を行った。以下に表彰者を示す。

①JC-IGS 論文賞

(ジオシンセティックスに関する学術および技術の進展に顕著な貢献をした論文の著者)

梅崎 健夫・河村 隆・河崎 彰・大寺 正志・西田 健吾

「マルチドレーン真空脱水法による高含水比土の脱水減容化と濁水のろ過処理」

②JC-IGS 論文奨励賞

(ジオシンセティックスに関する研究を行い、将来、学術および技術の進展に貢献が期待される論文の著者)

佐藤 崇

「ジオセルとジオグリッドを併用した支持力補強に関する補強効果とメカニズムの研究」

③JC-IGS 技術賞 (ジオシンセティックスに関する技術の進展に顕著な貢献をした、個人・グループ)

宮田喜壽・Bathurst, R.J.

「補強土壁の限界状態設計法のためのジオグリッドの引抜き抵抗力推定モデル」

④JC-IGS 技術奨励賞

(ジオシンセティックスに関する技術的研究を行い、将来、学術および技術の進展に貢献が期待される論文の著者)

辻 慎一郎・石垣 勉・川崎 始・太田 秀樹

「アスファルト舗装の地震対策型段差抑制工法の開発」

(2) 2013 年表彰委員会設営費報告

2013 年設営費 150,000 円

賞状費用 6,720 円

盾費用 61,425 円

紙袋費用 636 円

振込手数料 400 円

計 69,181 円

表彰委員会 2014 年活動計画

(1) 2014 年表彰委員会活動予定内容

- ・2014 年度 IGS 日本支部賞の選考，報告など
- ・IGS 賞本部賞選考などのお手伝い

(2) 2014 年表彰委員会予算案

盾、賞状作成費として 150,000 円

以上

学生・教育委員会 2013 年活動報告

(1) 2013 年活動報告内容

1) 委員会開催内容

メールにて打合せの開催

内 容：委員会運営方法について

見学会・入門セミナーの開催について

その他

第 1 回 学生・教育委員会

開催日：2013 年 9 月 27 日（金）

見学会の反省会

次年度に向けての検討

2) 行事開催

現場見学会

開催日時：2013 年 9 月 27 日（金）14 時～18 時

見学場所：さがみ縦貫道路（圏央道）楠強土壁

参加人数：9 名（正会員：7 名、学生（非会員）：2 名）

備 考：新技術委員会との合同開催

国土交通省相武国道事務所の協力

(2) 2013 年委員会設営費報告

内 訳	予 算	実 績	備 考
委員会設営費			
会議費	20,000	0	
入門セミナー経費※	40,000	0	
見学会経費	40,000	0	
合計	100,000	0	

学生・教育委員会 2014 年活動計画

(1) 2014 年活動予定内容

1) 委員会開催

入門セミナー・見学会等の企画および技術資料の提供等に関して年 3 回程度の委員会を開催予定。

2) 行事開催

第 14 回ジオシンセティックス入門セミナー

現場見学会

(2) 2014 年設営費計画

内 訳	予 算
委員会設営費	
会議費	20,000
見学会経費	40,000
入門セミナー経費	40,000
合計	100,000

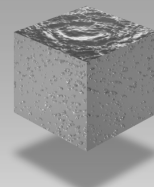
ジオメンブレン技術委員会（第Ⅵステージ）2013年活動報告

（1）ジオメンブレン技術委員会 2013 年活動報告

第Ⅴステージの検討成果（液状遮水材料における基本事項、埋立地遮水工への適用、遮水構造と設計、さらに施工と維持管理についての最新の知見）を「液状遮水材による遮水工マニュアル」（花書院発行、ISBN978-4-905324-61-4 C3040）としてとりまとめ発刊し、環境省、廃棄物関連団体、大学、ゼネコン、コンサルタンツ等へ配布ならびに、IGS 会員への配布を目的とした日本支部ホームページへの掲載準備を行った。

また、福島第一原発事故に由来する放射性物質に関する除染廃棄物の仮置場では、問題点が浮上しており、設計や工事の課題対応になるような問題提起を行うことを目標に、「除染廃棄物等の仮置場遮水工マニュアル」として、急ぎ要求される項目から提起し、順次とりまとめを行った。

液状遮水材による 遮水工マニュアル



国際ジオシンセティックス学会日本支部
ジオメンブレン技術委員会 編

（2）2013 年委員会設営費報告

委員会開催

2012 年 委員会設営費報告（自 2013 年 1 月 1 日 ～至 2013 年 12 月 31 日）

科 目	予 算	決 算	備 考
1. 委員交通費	¥225, 000-	¥315, 000-	委員会 10 回開催
2. 通信・消耗品費	¥125, 000-	¥30, 235-	会議費，通信費，マニュアル発送費等
合 計	¥350, 000-	¥345, 235-	

ジオメンブレン技術委員会（第Ⅵステージ）2014年活動計画

（1）2014 年活動計画

ジオメンブレン技術委員会第Ⅵステージ後半は、「除染廃棄物等の仮置場遮水工マニュアル」完成を目指した検討と技術提案をテーマに活動を行う予定である。

具体的には 2013 年に検討した内容の補完ならびに未検討項目についての検討を行い、「除染廃棄物等の仮置場遮水工マニュアル」を発刊する予定である。

委員会組織（予定）

委員長： 島岡 隆行（九州大学大学院工学研究院環境社会部門）

副委員長： 勝見 武（京都大学大学院地球環境学堂）

副委員長： 熊谷 浩二（八戸工業大学大学院土木工学専攻）

※委員については見直しを行う。

（2）2014 年設営費計画

2014 年度 委員会予算（自 2014 年 1 月 1 日 ～至 2014 年 12 月 31 日）

科 目	予 算	備 考
1. 委員交通費	¥270, 000-	委員会 6 回開催（¥45, 000×6 回＝¥270, 000-）
2. 通信・消耗品費	¥80, 000-	郵便，通信，封筒，マニュアル印刷費等
合 計	¥350, 000-	

ジオテキスタイル技術委員会（第Ⅵステージ）2013年活動報告

（1）ジオテキスタイル技術委員会 2013 年活動報告

ジオテキスタイル技術委員会では、全体委員会を1回開催した。開催概要は下記の通りである。

第1回 ジオテキスタイル技術委員会（第Ⅵステージ）

開催日：平成25年12月25日（水） 11:00～14:30

会場：地盤工学会会議室

議事

1. 委員会設立趣旨について
2. 安全裕度について
3. 各機関における安全裕度の考え方について

講演 防衛大学校 宮田教授（ジオグリッド補強土壁建設に伴うCO₂排出量の計算法と考察）

（2）2013 年委員会設営費報告（自 2013 年 1 月 1 日～至 2013 年 12 月 31 日）

科 目	予 算	決 算	備 考
委員交通費	¥180,000-	¥63,300-	委員交通費（12/25）
通信・消耗品費	¥20,000-	¥16,380-	会議費（12/25）
合計	¥200,000-	¥79,680-	

ジオテキスタイル技術委員会（第Ⅵステージ）2014年活動計画

（1）2014 年活動予定内容

ジオテキスタイル技術委員会第Ⅵステージでは、各種土木構造物の安全裕度の考え方について、各種事業者等から情報を収集し、整理するとともに、ジオグリッド補強土壁への適用可能性について検討するため、委員会を4回開催する。

（2）2014 年設営費計画

科 目	予 算	備 考
委員交通費	¥260,000-	委員会4回開催：¥65,000(1回)×4回= ¥260,000
通信・消耗品費	¥10,000-	郵便、通信、資料コピー
合計	¥270,000-	

新技術委員会 2013 年活動報告

(1) 2013 年活動報告内容

新技術委員会では 2013 年の活動として、

①ジオシンセティックスの新技術情報の調査・研究や新技術委員会の活性化を目的とした、現場見学・工場見学の開催

②新技術関連の講演会の開催

を計画した。

①については、2013 年 9 月 27 日(金)にさがみ縦貫、原島、相模原 IC、小倉地区、愛川トンネル工事のテールアルメ工法による補強土やトンネルの施工現場の見学会を実施した。なお、今回の現場見学については、学生・教育委員会(委員長：鎌尾彰司)との合同開催とした。(参加者：新技術委員会 16 名、学生・教育委員会 9 名、合計 25 名)

②については、2 月中の開催に向けて、講演者の選出、日程調整を現在進めている。(現在調整中)

新技術委員会の 2013 年活動内容を下表に示す。

	日時	場所	議事内容	備考
	2013 年 8 月 19 日～	メール審議等	・総武国道事務所との打合せ ・現場見学会の日程調整	
現場見学会	2013 年 9 月 27 日	さがみ縦貫原島、 相模原 IC、小倉地 区、愛川トンネル 工事	・テールアルメ工法等の施工現場見学会 (学生・教育委員会との合同開催：参加者 25 名)	
	2013 年 11 月 8 日～	メール審議等	・講演会の日程調整	
講演会	2014 年 2 月中	未定	・未定	

(2) 2013 年委員会設営費報告

2013 年の設営費報告を以下に示す。

収入	支出	残額	支出項目	備考
150,000	21,000		現場見学会運行料	9/27
		129,000		

新技術委員会 2014 年活動計画

(1) 2014 年活動予定内容

新技術委員会では 2014 年も 2013 年同様の活動を継続する。

①ジオシンセティックスの新技術情報の調査・研究や新技術委員会の活性化を目的とした、現場見学・工場見学の開催

②新技術関連の講演会の開催

(2) 2014 年設営費計画

2014 年の設営費計画を以下に示す。

交通費	会議費	講演会費	計	備考
50,000	50,000	50,000	150,000	

ジオテキスタイルによる粘り強い強化防潮堤開発委員会 2013年活動報告

(1) ジオテキスタイルによる粘り強い強化防潮堤開発委員会2013年活動報告

ジオテキスタイルによる粘り強い強化防潮堤開発委員会は、以下の体制、目標にて昨年度に発足、今年度は4回の全体委員会開催および設計・施工マニュアル(案)原稿作成のための少人数委員によるWGを設け、マニュアル完成に向けた活動を行った。

1)体制

委員長 : 東京理科大学理工学部土木工学科 菊池 喜昭 教授、

副委員長: 農村工学研究所施設工学研究領域 毛利 榮征 領域長 他委員24名(昨年度21名より3名追加参加)

2)活動の目標

津波に対する粘り強さを発揮できる堤防を実現するための「ジオテキスタイル強化防潮堤」設計・施工標準マニュアルを提案することを最終目標とする。

設計、施工標準マニュアルの提案を目標としており、昨年度策定したマニュアルの基本方針およびそれ準じ作成した骨格、素案を基に、具体的な原稿の作成を行った。各回の委員会では、適宜少人数で実施したマニュアル作成WGからの報告に対して検討を加えることが中心であり、各委員の知見を適宜内容に反映されることができた。また、マニュアル素案の概略を作成した。

2013年は4回の委員会を実施、各回ともマニュアル作成に伴う議論が中心となった。

○第1回委員会: 3月25日(月) 14時30分～17時30分 三井化学産資 会議室

○第2回委員会: 5月29日(水) 13時30分～17時00分 三井化学産資 会議室

○第3回委員会: 8月2日(金) 14時30分～17時30分 三井化学産資 会議室

○第4回委員会: 11月13日(水) 15時00分～17時30分 三井化学産資 会議室

(2) 2013委員会設営費報告

2013年 委員会設営費報告 (自2013年1月1日 ～至2013年12月31日)

科 目	予 算	決 算	備 考
● 交通費	¥180,000-	0-	
● 通信・消耗品費	¥20,000-	0-	
合 計	¥200,000-	0-	残: ¥200,000-

ジオテキスタイルによる粘り強い強化防潮堤開発委員会 2014年活動計画

(1) 2014年活動計画

マニュアル(案)完成および発刊を目指し、各委員分担しマニュアル作成活動を継続する。また、委員間での技術情報共有および委員の知見を可能な限りマニュアルに反映させる場として委員会を開催することとしたい。なお、マニュアルを広く多くの技術者に活用されるべく、内容の完成度を高めるために、マニュアル作成WGの活動は適宜行うものとする。本委員会の活動期間をマニュアル発刊までの概ね6月までとするが、同期間内で、技術の普及およびマニュアル(案)のフォローアップを進めるための活動計画（次ステージ）を立案する。6月末までに2回の委員会を開催し、マニュアル(案)を発刊する予定である。

(2) 2014年設営費計画

2014年度 委員会予算（自2014年1月1日 ～至2014年12月31日）

科 目	予 算	備 考
1. 原稿作成費用	¥40,000-	一部図表の作成費用
2. マニュアル(案)作成費	¥460,000-	200部印刷
合計	¥502,000-	

財務委員会 2013 年報告

(1) 2013 年度会計決算 (別紙 参照)

収入は、予算と実績はほぼ同額となった。

支出は、予算よりも約 215 万円ほど少なくなった。

これは、委員会経費と事務局経費が予算の半分程度の実績であったためである。

繰入れ費を除いた収入実績は 6,445,954 円、支出実績は 7,424,026 円となり、978,072 円の支出オーバーとなった。

(2) 2014 年度会計予算 (別紙 参照)

収入は、昨年度とほぼ同額の 6,430,800 円とした。

支出も、昨年度とほぼ同額の 9,329,800 円とした。

したがって、今年度の予算は 2,899,000 円のマイナス予算である。

2015 年度への繰越金は 17,823,282 円となった。

IGS日本支部 2013年度会計決算

期間:2013年1月1日～2013年12月31日

平成26年2月5日

収入の部

科 目	2013年予算	2013年実績	備 考
1. 会費等収入			
①2013年度分			
法人会員	4,080,000	3,600,000	15社×240,000円/社
個人会員	1,520,000	1,368,000	171名×8,000円/人
学生会員	10,000	9,000	9名×1,000円/人
②本部還付金			
法人会員分	76,500	82,833	17社×50\$ (97.45円/\$)
(小計)	5,686,500	5,059,833	
2. 講習会・出版等収入			
シンポジウム	450,000	626,000	参加費+懇親会収入
講習会, 見学会他	10,000	0	参加費
書籍, ビデオ等販売	10,000	3,000	
書籍印税		0	
(小計)	470,000	629,000	
3. 広告等収入			
技術情報誌広告	350,000	456,000	3月号、7月号、11月号
ジオメン技術委員会マニュアル協賛		300,000	
(小計)	350,000	756,000	
4. 受取り利息等			
受取り利息	2,000	1,121	
その他	0	0	
(小計)	2,000	1,121	
(収入合計)	6,508,500	6,445,954	
5. 繰越し金			
繰越し金	21,700,354	21,700,354	2012年から2013年への繰越し金
(小計)	21,700,354	28,146,308	
(収入総合計)	28,208,854	28,146,308	

支出の部

平成26年2月5日

科 目	2013年予算	2013年実績	担当委員会・備考
1. 本部国際学会費支出			担当:事務局
法人会員	1,530,000	1,656,650	17社×1000\$ /社×97.45円/\$
個人会員	513,000	578,853	198名×30\$ /名×97.45円/\$ (207名 2012年末)
学生会員	0	0	20名×0円/名
(小計)	2,043,000	2,235,503	
2. 講習会・出版等支出			担当:行事委員会
シンポジウム	700,000	1,066,106	
講習会・見学会補助費	100,000	0	
マニュアル印刷費	0	420,000	ジオメン技術委員会マニュアル作成費
(小計)	800,000	1,486,106	
3. 技術情報発行費			担当:編集委員会, (名簿:事務局)
技術情報誌印刷製本費	1,150,000	862,260	100万(情報誌)+15万(名簿作成費)
編集補助作業, 原稿料他	20,000	22,000	アルバイト代, 原稿料
発送, 連絡費	280,000	189,810	3月号, 7月号, 11月号発送費用
(小計)	1,450,000	1,074,070	
4. 委員会経費			担当:各委員長
国際連絡委員会	1,500,000	752,886	理事会派遣費
コーポレート委員会	50,000	0	
編集委員会	200,000	200,000	技術情報誌発行別
行事委員会	100,000	9,664	シンポジウム別
表彰委員会	150,000	69,181	委員会費5万+盾, 賞状作製費10万
技術委員会(強化防潮堤開発)	200,000	0	ジオテキスタイルによる粘り強い強化防潮堤開発委員会
ジオテキスタイル技術委員会	200,000	79,680	
ジオメンブレン技術委員会	350,000	345,235	マニュアル作成
新技術委員会	150,000	21,000	
ジオシンセティック試験法委員会	200,000	179,700	
学生教育委員会	100,000	0	見学会, 入門セミナー
電子情報委員会	100,000	50,000	HPの更新・改良
財務委員会	0	0	
(小計)	3,300,000	1,707,346	
5. 事務局経費,その他			担当:事務局
総会	70,000	79,952	総会+懇親会費
地盤工学会会議室使用費	700,000	305,076	会議室使用費・コピー代(5万円)
事務局費	100,000	0	埼玉大学コピー代その他
通信費	120,000	62,180	
消耗品費	100,000	5,330	
備人費	750,000	430,200	事務局備人費
幹事会	40,000	13,288	会議費, 幹事交通費, 通信費資料購入など
その他	100,000	24,975	事務局交通費, 慶弔費等, 送金費, 謝金
(小計)	1,980,000	921,001	
(支出合計)	9,573,000	7,424,026	
6. 予備費・繰入れ費			
2013年から2014年への繰越金	18,635,854	20,722,282	
(支出総合計)	28,208,854	28,146,308	

IGS日本支部 2014年度会計予算

期間:2014年1月1日～2014年12月31日

平成26年2月7日

収入の部

科 目	2014年予算	備 考
1. 会費等収入		
①2014年度分		
法人会員	4,080,000	17社×240,000円/社(13年度分2社含まず)
個人会員	1,440,000	180名×8,000円/人
学生会員	10,000	10名×1,000円/人
②本部還付金		
法人会員分	86,700	17社×50\$ (102円/\$)
(小計)	5,616,700	
2. 講習会・出版等収入		
シンポジウム	450,000	参加費+懇親会収入
講習会, 見学会他	10,000	参加費
書籍, ビデオ等販売	3,000	
書籍印税	0	
(小計)	463,000	
3. 広告等収入		
技術情報誌広告	350,000	3月号、7月号、11月号
(小計)	350,000	
4. 受取り利息等		
受取り利息	1,100	
その他	0	
(小計)	1,100	
(収入合計)	6,430,800	
5. 繰越し金		
繰越し金	20,722,282	2013年から2014年への繰越し金
(小計)	20,722,282	
(収入総合計)	27,153,082	

支出の部

平成26年2月7日

科 目	2014年予算	担当委員会・備考
1. 本部国際学会費支出		担当:事務局
法人会員	1,734,000	17社×1000 \$ /社×102円/\$
個人会員	550,800	180名×30 \$ /名×102円/\$ (194名 2013年末)
学生会員	0	20名×0円/名
(小計)	2,284,800	
2. 講習会・出版等支出		担当:行事委員会
シンポジウム	600,000	
講習会・見学会補助費	100,000	
(小計)	700,000	
3. 技術情報発行費		担当:編集委員会, (名簿:事務局)
技術情報誌印刷製本費	1,150,000	100万(情報誌)+15万(名簿作成費)
編集補助作業, 原稿料他	25,000	アルバイト代, 原稿料
発送, 連絡費	280,000	3月号、7月号、11月号発送費用
(小計)	1,455,000	
4. 委員会経費		担当:各委員長
国際連絡委員会	1,200,000	理事会・総会派遣費
コーポレート委員会	50,000	
編集委員会	200,000	技術情報誌発行別
行事委員会	100,000	シンポジウム別
表彰委員会	150,000	委員会費5万+盾, 賞状作製費10万
技術委員会(強化防潮堤開発)	500,000	マニュアル(案)発刊、印刷200部を含む
ジオテキスタイル技術委員会	270,000	
ジオメンブレン技術委員会	350,000	
新技術委員会	150,000	
ジオシンセティックス試験法委員会	200,000	
学生教育委員会	100,000	見学会, 入門セミナー
電子情報委員会	100,000	HPの更新・改良、論文集の電子化
財務委員会	0	
(小計)	3,370,000	
5. 事務局経費,その他		担当:事務局
総会	80,000	総会+懇親会費
地盤工学会会議室使用費	350,000	会議室使用費・コピー代(5万円)
事務局費	100,000	埼玉大学コピー代その他
通信費	100,000	
消耗品費	50,000	
備人費	750,000	事務局備人費
幹事会	40,000	会議費, 幹事交通費、通信費資料購入など
その他	50,000	事務局交通費, 慶弔費等、送金費、謝金
(小計)	1,520,000	
(支出合計)	9,329,800	
6. 予備費・繰入れ費		
2014年から2015年への繰越金	17,823,282	
(支出総合計)	27,153,082	

監 査 報 告 書

国際ジョシンセティックス学会日本支部の2013年一般会計について帳簿・証票・書類等を検証の結果、適正かつ正確であることをご報告申し上げます。

平成26年2月12日

会計監事 間 昭徳

署名 間 昭徳 印 

会計監事 石川 雅洋

署名 石川 雅洋 印 

IGS日本支部 2014年度 役員名簿

2014年2月12日

支部長	三木 博史	(三木地盤環境工学研究所)
副支部長	桑野 二郎	(埼玉大学)
幹事長	*平井 貴雄	(三井化学産資)
副幹事長	宮田 喜壽	(防衛大学校)
副幹事長	横田 善弘	(前田工織)
会計・幹事	*伊藤 雅夫	(前田工織)
幹事	内村 太郎	(東京大学)
幹事	*大谷 順	(熊本大学)
幹事	鎌尾 彰司	(日本大学)
幹事	嘉門 雅史	(香川高等専門学校)
幹事	*菊池 喜昭	(東京理科大学)
幹事	清川 伸夫	(東京インキ)
幹事	*熊谷 浩二	(八戸工業大)
幹事	小島 謙一	(鉄道総合技術研究所)
幹事	古関 潤一	(東京大学)
幹事	*木幡 行宏	(室蘭工業大学)
幹事	*島岡 隆行	(九州大学)
幹事	龍岡 文夫	(東京理科大学)
幹事	矢島 寿一	(明星大学)
幹事	榊尾 孝之	(太陽工業)
幹事	*満尾 淳	(東急建設)
幹事	*峯岸 邦夫	(日本大学)
幹事	*椋木 俊文	(熊本大学)
幹事	毛利 栄征	(農村工学研究所)
監事	間 昭徳	(三菱樹脂)
監事	*石川 雅洋	(東洋紡績)
事務局	伊集院紀子	(IGS 日本支部事務局)
支部顧問	赤木 俊允	(東洋大学名誉教授)
支部顧問	岩崎 高明	(エス・エヌ・テーエンジニア)
支部顧問	田中 茂	(神戸大学名誉教授、(財)建設工学研究所)
支部顧問	福岡 正巳	(土木研究センター)

*再任、 #新任